

【ひろしま避難者の会「アスチカ」とは？】

避難者による避難者のための会です。

東日本大震災の地震や津波、東京電力福島第一原発事故の避難者がここ広島で生活の基盤や気持ちを整えたり、同じ思いの仲間を見つけたりしながら、避難生活を落ち着かせ、次のステップへ踏み出すことをサポートする当事者団体として設立しました。現在、アスチカには 93 世帯 307名の避難者が登録しています。

※「アスチカ」＝「明日へすすむ力」

表1 広島県把握の避難者数

	世帯数(人数)	%
岩手	3 (9)	2.6
宮城	6 (18)	5.1
福島	66 (185)	56.4
その他(関東地方など)	42 (113)	35.9
計	117 (325)	

2026年2月1日

※表1の人数は全国避難者情報システム(総務省)への本人からの届け出により把握されている人数です。すべての避難・移住者が登録しているものではありません。広島県にも未登録の避難者が数多くいます。また、本人の意思で登録解除をされる方もいます。登録後、避難先で転居した際に登録情報の変更連絡が必要なことや正しい連絡方法の認知が低く、知らない間に登録から外れていることがあり、再登録のサポートをすることもあります。

表2 アスチカ会員世帯 避難元別

	世帯数(人数)	%
岩手	0 (0)	0.0%
宮城	7 (24)	7.5%
福島	43 (136)	46.2%
関東地方	43 (147)	46.2%
計	93 (307)	

2026年2月28日

入会世帯は1世帯。退会4世帯。入会世帯は以前から広島県へ避難していた世帯。退会世帯は避難元へ戻られた世帯。

93世帯のうち5世帯は現在他県在住。広島から他の土地へ移られても情報の獲得やつながりを維持したい方は会員(準)として登録いただいています。

表3 アスチカ会員 世帯状況

	世帯数	%
単身	7	7.5%
大人のみ	21	22.6%
大人+子ども世帯	65	69.9%
母子世帯	18	19.4%

子どもは18歳未満をカウント。

子どもの成長で大人のみとなる世帯、大人のみ世帯から単身世帯になった世帯などもあります。

母子世帯は「大人のみ」世帯でも学生のいる世帯は含めています。

アステカ会員アンケート結果 回収数 25 世帯／92 世帯(回収率 27.1%)
2月19日(木)郵送により配布 3月7日(土)までの回答分を集計

Q1 生活面（住まい・仕事など）に関して、ご自由にお書きください。（お困りごとやお悩み、思うことなど）

- ・おかげ様で無事に生活できています。文化的にも健康的にも最低限ではありますが、気持ち的に少しだけ楽です。
- ・生活は、家を購入したことでローンの支払いもありますが、子どもたちも社会人になり「自分のことは自分で」に変わったし、協力もしてくれるので大変だけど安定はしてきているのかなと思います。
- ・4月には孫も生まれるので生活が忙しくなりそう。
- ・夫が体調不良で無職なので経済的に大変。
- ・長く住める所に引っ越したいが、保証人になるような人がもういないので難しい。
- ・シングルマザーになって子育て中なので医療の面でも、養育の面でも免除や手当てで助かっていますが、今春から子どもが高校生になり3年後の大学進学からの生活が大変になると思い、不安はあります。

Q2 ご家族の中（避難元の親御さんなども含め）で健康に不安のある方はいらっしゃいますか？

	回答数	%
はい	11	44.0
いいえ	14	56.0

50 代世帯が増えるにつれ自身や配偶者、親の健康への心配がよりリアルになってきています。

Q3 今後のご予定は決まっていますか？

	回答数	%
今住んでいる自治体へ定住	11	44.0
避難元ではないところへ移動	0	0.0
避難元へ戻る	0	0.0
決めていない	10	40.0
上記に当てはまらない	4	16.0

- ➡
- ① 避難元に帰りたい：1
 - ② 避難先に定住したい：4
 - ③ 選択なし：5

（今住んでいる自治体に定住）

持ち家があるため / 会社経営をしているため / 高齢者の域に達し、移動しても再就職に不安がある / 障害がある兄弟がいるため、広島を離れることは難しい / 子どももこちらで仕事を始めた / すごく住みやすい場所なので / 子どもたちの「帰省先」は広島なので

（決めていない）

- ・各自就職、進学、転勤でどこに住むか未定。
- ・食品が安心なものが手に入る。（避難先で定住したい）
- ・田んぼをやっている（13年）、東京では同じ条件で稲作はできないので。（避難先で定住したい）
- ・避難元には戻らず、自給自足ができる場所が見つければ移動したい。
- ・避難元の親が心配だが、広島で自宅を持ち、子どもたちも就職したので結果として住み続けると思う。

(上記に当てはまらない)

- 家があるので定住なんだろうけど(きっと死ぬときも広島なんだろう)、避難元に帰りたい気持ちはある。現実的に無理だけど。
- 広島で長女が結婚。次女も結婚を控えている。実母もこの頃体調が悪い時があるので決めかねる。
- 家族一人一人の予定が違ったり、決まっていなかったり。

「定住」「定住したい」が半数以上。仕事や住まい、子どもが広島になじんでいることを理由にあげる世帯が多い。

「定住」、「定住したい」という回答でも、のちの項目で避難元の親となかなか会えないことや避難元の親の介護について考えている方は多い。

現実的には「定住」だが、「帰りたい」気持ちを抱えながら…という人もいる。

Q4 今、大変だと感じていること・困っていることは何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
仕事が見つからない	0	0.0
仕事にやりがいを感じない	0	0.0
生活費が足りない	4	16.0
支援が縮小していくこと	4	16.0
避難指示が解除されたこと	1	4.0
体調不良	5	20.0
忙しすぎる・自分の時間がないこと	6	24.0
親の介護	6	24.0
育児	1	4.0
子どもの教育・進路	6	24.0
家族バラバラに暮らしていること	2	8.0
避難元の親・親戚・友人になかなか会えないこと	9	36.0
心の余裕のなさ・精神的な不安定さ	2	8.0
家族間の意見の不一致(夫婦間、パートナーと自分)	2	8.0
家族間の意見の不一致(自分と親)	2	8.0
家族間の意見の不一致(自分と子ども)	1	4.0
避難元が復興しないこと	1	4.0
避難元の復興が望む形と違うこと	1	4.0
避難元に帰れないこと	1	4.0
(直近で)避難元に帰ろうと思うが、具体的にどうすればいいのかわからない。	0	0.0
今住む地域に親しい友人がいないこと	3	12.0
避難元の友人と疎遠になってしまったこと	6	24.0
震災や原発事故のことが世間から忘れられているように感じる	8	32.0
原発が再稼働されたこと	5	20.0
避難先の人たちと意識の差を感じる	2	8.0
避難への無理解	1	4.0
特にない	2	8.0
その他	4	16.0
無回答	0	0.0

(その他・自由記入)

- ・「避難元の親・友人に会えないこと」は行こうと思えば行けるけど仕事をしていると長い休みの時ぐらいしか行けない。1泊2日で済むわけないし。
- ・(避難元の)夫の父親が要介護1、デイケアに通い始めた。世話をしあげられない。
- ・避難が必要な状況が起こったことが現在に活かされていないように感じる。
- ・原発事故を忘れたかのような原発回帰。それも仕方ないという世間の空気。

避難元の親が年老いていくにつれ、「避難元の親になかなか会いに行けないこと」や「親の介護」を選ぶ人が増え、その心配もリアルになってきている。

「震災や原発事故のことが…」や「原発再稼働」は原発避難者の存在を忘れられているということではなく、「震災や原発事故があったことを忘れてしまったかのような世の中の動き、選択、ビジョン」に違和感という意味合いが強いと思われる。

避難当初は小さかった子どもたちが高校生以上になっている世帯が増え、子どもの進路も各家庭の大きな課題になっている。

Q5 今後、どんなことに不安やお悩みがありますか？

(複数回答あり)

	回答数	%
避難先の生活が安定するか	3	12.0
自分の健康が保てるか	10	40.0
家族の健康が保てるか	7	28.0
避難し続けられるか	1	4.0
公的支援がいつまで続くか	1	4.0
避難指示が解除されること	0	0.0
子どもをしっかり育てられるか	3	12.0
子どもの教育・進路	3	12.0
家族と一緒に暮らせるか	3	12.0
夫婦の関係が悪化しないか	3	12.0
避難元の親・親族との関係、付き合い	6	24.0
避難元へ帰れるか	0	0.0
避難元へ帰らなければいけないこと	2	8.0
避難元へ帰った時に孤立しないか	0	0.0
避難元にいる親の老後・介護	5	20.0
避難先での人間関係	2	8.0
自分の老後	13	52.0
子育て後の身の振り方	6	24.0
特にない	3	12.0
その他	0	0.0
無回答	1	4.0

- ・自分の老後というかこれからの残りの人生をいかに穏やかに楽しく暮らすかが課題です。
- ・「子どものために避難した」という明確な理由があると子が育ち離れていくと「避難先にいる自分って？」と迷うのかも…と想像するようになってきた。
- ・60才を越えてからの収入減で、また生活が不安定になるのではないかという不安。

■ 最近、子育てを終えた後の自分についていろいろと思いを巡らしているお話を聞くことが増えました。子育て後についての思いやお悩み、迷いなどあればお聞かせください。

- ・子どもが巣立った後、自分が住む場所をどうするか考えています。
- ・最近、子供は子供であって、自分のことは年をとっても頼るべきではないと思っています。
- ・子どもに手がかからなくなってからの自分や夫婦のあり方はよく考えるようになりました。私自身はもっと人の少ないところに住みたいですが、子どもは今のところ今の場所が気に入っていて、夫がどうしたいのかはちゃんと聞いていません。私の希望で西日本に来たのでこれ以上巻き込むのは悪いようにも思っています。
- ・子どもが巣立つのは早いなあ。3人もいたのに今は中学生一人。ずいぶん静かな家になってきました。まあいるのもよし、いないのもよし。
- ・15年も経ち、定年までの時間が短くなったので、子育て後の自分について考えることが増えました。
- ・原発事故以来、夫のみ単身赴任。子どもが自立後、夫婦がまた一緒に暮せるか不透明。
- ・これまで自分の楽しみは後回しにしていた分、自分の楽しいことを積極的にしていきたいと思っている（が、それにお金もかかってくる）

「自分の老後」へのチェックが特に多かった。避難後、子育てを目一杯頑張ってきた世帯で子どもが成長して手を離れたり、子どもの有無に関わらず定年が見えてきたりしたときに、次の課題として自分の老後が一気に上がってきている状況。
 避難先での生活は表面的には落ち着いている人も増えているが、経済面、健康面でその維持への不安を抱えていることもあるようである。

Q6 震災から間もなく15年の時期になって、変化してきたことは何ですか？良いことでも悪いことでも気づきがあれば教えてください。（複数回答可）

（複数回答あり）

	回答数	%
気持ちが穏やかになってきた	4	16.0
あきらめのような気持ちが強くなった	5	20.0
生活が安定してきた	7	28.0
楽しいことをしようという気持ちになってきた	9	36.0
無気力になってきた	3	12.0
前向きな気持ちになってきた	0	0.0
将来への不安が強くなった	7	28.0
広島に定住する気持ちが固まった	3	12.0
避難元へ帰りたい気持ちが強くなった	2	8.0
怒りが強くなった	0	0.0
変化はない	4	16.0
その他	5	20.0
無回答	0	0.0

(その他・自由記入)

- ・今の生活に精いっぱいよく分かりません。
- ・震災後、個人的にも家族の病気や子供の心配など常にいろいろと大きなことがあり、不安は年々大きくなります。
- ・避難元に一人で暮す親のことは心配しています。実家を処分したら避難元に気軽に帰り、人に会ったりは難しくなるなと思っています。
- ・広島に来たのは14年前でそれほど気持ちに変化はないけど生活の安定の面では子育てが終わって変わったのかな？
- ・経年劣化はありますね…。心はより安定しています。
- ・避難元に近い（一日で行ける）故郷に戻りたいと考えることが増えました。
- ・震災による避難移住という文脈とは全く関係なく数年前に避難元から親を呼び寄せました。（介護）思いがけない流れになるものだと思っています。親も自分も年を取り、将来への不安は強いです。

生活の落ち着きから「楽しいこと～」「生活の安定」が選ばれている。

一方で、自分も親も歳を重ねることでの健康面での心配が増えたりし、老後を安心して送れるか不安を感じている人たちも増えました。

Q7 アスチカは「生活の基盤や気持ちを整えたり、同じ思いの仲間を見つけたりしながら避難生活を落ち着かせ、避難者が次のステップへ踏み出す力を蓄えることをサポートする」ことを掲げて活動してきました。現在、日々の生活は「安定した」、「生活基盤は整った」と感じますか？

	回答数	%
はい	21	84.0
いいえ	3	12.0
無回答	1	4.0

①（「はい」の方） それは避難後何年たった頃ですか？

	回答数	%		回答数	%
直後	1	5%	9年	0	0%
1年	0	0%	10年	3	14%
2年	2	10%	11年	1	5%
3年	1	5%	12年	1	5%
4年	0	0%	13年	2	10%
5年	6	29%	14年	0	0%
6年	0	0%	15年	0	0%
7年	1	5%	無回答	2	10%
8年	1	5%			

② 「はい」の方) それは何をもってそう感じましたか?

正社員として就職できたので / 家族の同居 / 安定した仕事(とはいわずらいますが、非正規なので)に就けたこと / 子どもが広島の学校生活になじみ、楽しんできた / 家が決まって、子どもがこども園に在園(家庭以外の固定の居場所ができた) / 子どもたちが就職したので学費分を心配しなくなったから / 子どもたちの精神状態が安定したと感じたので / 子どもが成長し、仕事ができるようになったから / 年収の回復と親元に気軽に行き来するようになってから / 仕事、子どもの居場所、暮らしが整ってきた

③ 「いいえ」の方) それは何が妨げとなっていますか?

- ・住居
- ・子育て、親族のケア・介護をしているうち、非正規雇用で50歳を迎えました。今の現状をなかなか考えられません。
- ・なかなか本来の性格もあるので人とのつながりなどは苦手なので次々心配事も増えつつある中です。

生活の安定を感じた時期は5年と10年前後に山がある。安定を感じるポイントは、仕事・収入の安定、地域に馴染めたり居場所がある実感があることがあげられる。安定を感じられない避難者は、前述のポイントが整っていないことで、そこから未来への不安や将来の不確定さを感じている。

Q8 避難・避難後の生活で、あってよかった支援、欲しいor欲しかった支援は何ですか?

あってよかった支援

- ・住宅支援
- ・生活応援品。
- ・家庭訪問、戸別訪問。
- ・赤十字の家電支援
- ・義援金。
- ・避難先の定住・移住支援
- ・さまざまな形の交流会
- ・避難者の健診、エコー検査体験会
- ・ふるさとひろしま架け橋ツアー(福島県の避難元の現状視察のための支援事業)
- ・アスチカがあってよかったと思います。
- ・同じ思いの仲間がいると知ることができたこと。いざという時に頼れる先があることが、心の支えです。
- ・帰省費の支援(福島県以外の避難者向けのもの)
- ・NEXCOの高速道路無料措置
- ・同じような境遇の人が近くにいる、繋がれるとわかっているだけで心強かった。

欲しい・欲しかった支援

- ・住居の支援
- ・避難元への条件なしの帰省の交通費
- ・子育ての相談先案内(情報、コンタクト先)が知りたかった。探す苦労をしました。
- ・原発からの避難に関わらず、避難したいと思った人への移住支援。「(県域を越えた)避難」という選択肢が公的にあるという社会認識

これまでを振り返って、あって助かった支援、欲しかったがなかった支援を挙げてもらいました。避難元によって受けられる支援が違っているので、受けられた人と受けられなかった人がいたものもあります。情報が得られず、対象者であったのに受け取れなかった支援もあったと思われます。また、公的支援ではなく、民間の支援につながり、支援を得られた方もいます。住宅支援の有無は、避難生活への影響が特に大きいものでした。

Q9 発災から15年が経ちました。避難生活の中でよかったと思うこと、つらかったと思うこと、自分自身の気持ちの経過、今だから思うことなど、これまでを振り返ってのをご自由にご記入ください。

- ・母が亡くなった。遠いため、あまりサポートできなかったことが残念。
- ・この15年が早かった。子育てと生活費を稼ぐこと、途中災害が他地域でもあったり、いまだにあちこちで地震があったり、コロナ禍もあったり、さまざまなことに振り回されて、とにかく時間が足りませんでした。それでもどうにか家族そろって生きてこられたことが良かったです。
- ・発災も避難生活もつらく大変でしたが、個人的にも家族が病気で亡くなり、その他の心配事もいろいろ続いていて振り返ると辛いことの方が多くなってしまいましたが、今、自分が生かされている意味を受け止めて少しでも誰かの家族の役に立っていけたらと思う今日この頃です。
- ・広島に来て特にアスチカに入られている人は脱原発の方が多いので、その価値観を確認せずに関係が始められるのが移住当初は特にありがたかったです。
- ・避難先の住宅が駅にも近くて便利で助かってます。留守にするときも下の階の方が郵便物、ポストの管理をしてくれたりするので感謝しています。
- ・データ・シミュレーション等で南海トラフを報道でよく見るけどそれはあくまで想定であって、各地域、世帯状況、生活環境10人いたら10人違うので各地域でのシミュレーションを行ってほしいです。災害が起こったら、どんな災害でも「今日と同じ明日はこない」「当り前じゃない」
- ・私たちが経験したことを活かしてほしい。
- ・支援してくださる方がとても親身になってくださり、助けてくださった。感謝しています。
- ・良かったこと。自分たち家族は何があっても大丈夫と思って生きてきた。そして災害に2度（西日本豪雨で地域壊滅）あって、やっぱり大丈夫だった。つまりこれからも大丈夫。と思える。良い世の中だと思う。助けてくれる人はたくさんいる。いろいろ失っても生きていけば何とかかなると思える。
- ・よかったと思うことはあまりないですが、がむしゃらに頑張っていたらいつの間にか15年過ぎていた…という感じです。常に不安はありますが、日々生きていることをありがたいと思い、これからも前を向いて頑張ります。
- ・子どもが大学に進学して東京に転居しましたが、地震を嫌っています。備蓄の習慣はありますが、人の多い地区での災害時リスクも嫌っているので罹災経験を共有すべくうまく生かした生活方法特集などをメディアで取り上げられたら良いなと思います。
- ・なってみないと分からない心境を体験できたので今後活かしたい。とはいえ、経験は同じでも感じ方はそれぞれなので、「他者の心はその人にしか分からない」という気持ちでの関わり方をしていきたいです。

Q10 能登半島地震等、東日本大震災後、何度も国内で災害が起こっています。発災時の被災者支援について、思うことがあれば教えてください。

- ・避難先では多くの人々に親切にいただき、日本人で良かったと思った。毎年、何か災害が発生しているので、全部は難しいが、できる範囲で支援をしていければという気持ちはある。
- ・女性の被災者に対するサポートがもっと広まればいいと思う。
- ・日々の人とのつながり、友だち、近所の人、大切だと思います。日頃から声をかけあっておきたいです。
- ・支援の格差のないように。自治体の窓口の体制を整えて手厚い支援を！（避難所で終わりにしないでほしい）
- ・当事者にならないと理解できないのだと毎回感じます。支援者もその都度に当事者となるので他者にも伝えられていないのでなかなか罹災時の対策が浸透していきにくく残念です。
- ・残りたい人、移りたい人、それぞれの人の気持ちに沿った支援の幅が出来るとよい。
- ・発災直後からしばらくは活発ですが、息の長い支援がきちんと計画的に、組織的に行われてほしい。被災者の気力が失われないようにしてほしい。

Q11 今、楽しいこと、楽しみにしていることはありますか？

	回答数	%
はい	19	76.0
いいえ	3	12.0
無回答	3	12.0

子どもの成長 / 太極拳 / 仕事 / 夏に帰省すること / 自分の成長と自分の成長 / 東京にいる娘たちに会うこと / 推し活 / 隣に住む友達と散歩 / 娘の出産 / 音楽活動 / 田畑、家づくりなど生活すべて / 時々美術館に行くこと / 仕事とがんばったご褒美のビール / 毎週1度のデイサービス / 友人との食事会 / 友人と会っておしゃべり / 旅行 / 趣味に没頭すること

Q12 アスチカに求めているもの、会員でいること理由は何ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
他の避難者と知り合うため	2	8.0
避難者同士のつながり(交流会などには出ずとも)	14	56.0
アスチカから発行物が届くこと	4	16.0
支援情報の獲得	5	20.0
さまざまな催しの情報獲得	0	0.0
困った時の相談場所として	9	36.0
避難者であることの自己確認(「自分＝避難者」であることを確かにする)	5	20.0
精神的支え	13	52.0
避難者同士の情報交換のため	3	12.0
その他	3	12.0
無回答	2	8.0

(その他・自由記入)

- ・誰かと繋がっているという心強さ、精神的な支えが大きいです。
- ・共感できる方がいることが知れるだけでも十分です。

Q13 あなたにとってアスチカの活動で必要なもの上位3つを選んでください。

	回答数	%
交流会	4	16.0
たねまく通信等の発行・お届け	12	48.0
「たねまく広場」の運営	10	40.0
「たねまく広場」でのイベント	5	20.0
生活応援品の提供	5	20.0
民医連健康相談会の案兄	4	16.0
支援情報の獲得・仲介	5	20.0
他の支援団との繋がり	4	16.0
会からのコンタクト(電話)	1	4.0
会からのコンタクト(訪問)	1	4.0
公式LINE	4	16.0
その他	1	4.0
無回答	4	16.0

(その他・自由記入)

- ・いざという時に相談できる場所などがあってくれるのは心強いです。

選んだ3つのうち特に必要だと思うものを選んでいただくと「たねまく広場の運営」が一番多くなり、「生活応援品の提供」が続きます。

発行物が届くことも情報が届くことだけでなく、「繋がりを持っていること」を実感する機会となっていたり、アスチカの事務所兼交流スペース「たねまく広場」があること自体、避難者のつながりやいざという時の相談場所があることを目に見えるものにしていくことで避難者の安心感に繋がっているようです。

同じ境遇の人たちが近くにいること、孤立していないと感じることは、大変ではあっても「自分も頑張ろう」思えることにつながっています。

Q14 「アスチカがあってよかったと思った瞬間があれば教えてください。ささやかなものでもかまいません。

- ・交流会で同じ立場・境遇の人と話せたこと。
- ・毎回届く刊行物もそうですが、お忙しい中家まで来てくださり、お話を聞いてくださったことです。
- ・何度かお邪魔しています。「行けばある」という安心感
- ・万が一、問題が出来たときに相談できる。
- ・いろいろな出会い。
- ・交流会で会員の方々のお話を聞けたこと。悩みを聞いてもらったこと。
- ・避難者同士の繋がりが持てたこと。

Q15 アスチカを退会するのはどうなった時ですか？

(複数回答あり)

	回答数	%
広島を離れる時	7	28.0
「もう避難者ではない」という気持ちになった時	1	4.0
支援や情報が必要なくなった時	0	0.0
自立できたとき	1	4.0
アスチカの活動終了時まで会員でいる	15	60.0
その他	0	0.0
無回答	1	4.0

それぞれが広島でいろいろな人や社会とのつながりを作って生活をしているが、3.11 をきっかけに広島で暮らすことになった者同士というコミュニティーは、会員にとって広島での生活が落ち着いたからといって必要なくなるものではなく、精神的な支えとして必要とされていると感じます。

Q16 広島の中で心を許せたり、頼り合ったりできる人とのつながりはできましたか？

	回答数	%
はい	18	72.0
いいえ	5	20.0
どちらともいえない	0	0.0
無回答	2	8.0

(「はい」の人) アスチカがなくても成り立つものですか？

	回答数	%
はい	18	100.0
いいえ	0	0.0

(「いいえ」の人) それはなぜですか？

	回答数	%
出会いがない	1	20.0
時間がない	2	40.0
会おう場に行っても見つからない	1	20.0
必要としていない	0	0.0
その他	1	20.0
無回答	0	0.0

(その他・自由記入)

- もともと、家族全員が人との関わりが得意ではないので。
- なかなかできるのは難しい。自分と同じ目標だったり、やりたいことがないとね。

全体を通して

東日本大震災から 15 年という切りの良い年になりましたが、避難者の暮らしはそれとは関係なく、これまで通り、大変さは変わらずあるにしても、それを受け入れて可能な範囲で一生懸命暮らしている様子が見えます。

15 年経てば、30 代が中心だった子連れの避難世帯も、50 代世帯が増え、当時生まれたばかりだった子どももこの春で高校生になる年齢になっています。大学進学で広島を離れたり、就職したりと大きな変化を迎えている家庭も多くなりました。それと同時に、親の介護などの問題も発生したり、ふと気づくと自分の老後の問題が目の前に迫っていることにも直面し、避難者の暮らしはまた新たな局面に入っているように思います。

広島に何の縁もないまま避難した人は、ひとたび何かあったときには頼る先をあまり持っていない状況にあり、そこに不安を感じている人はこれまでと変わりなく少なくありません。避難者同士のネットワークを持つことは、同じ境遇にある人たちを身近に感じ、その「一人ではない」という気持ちは不安を少し和らげ、困難な日々にも生きる気力を与えてくれる役割を持っていると感じています。

そして、避難者たちが「何かあったときに相談できる」先としてアスチカを認識してくれているのですが、アスチカがその相談に応えるときにはいつも、支援・連携してくださる広島の方々のお力を借りています。これからも、アスチカは広島の方々のお力添えをいただきながら、避難世帯の生活サポートに取り組んでまいります。引き続き、ご協力をお願いいたします。